


春のたよりをお送りします

元日の能登半島地震、異例の暖冬等、今年もすでにいろいろありましたが、北海道・東北にもゆっくりと春が訪れようとしています。

2021年より3年にわたり休館していた広重美術館も、4月の再開に向けて準備を進めています。またイベント等のお知らせできればと存じます。

研究会だよりへ情報をお寄せください

日頃の取り組みやイベントのお知らせなど何でもOKです。皆さまのご投稿をお待ちしております。(次号は6月発行予定)

担当:土屋明日香  asuka@hiroshige-tendo.jp
tel.023-654-6555

大木圃貝塚桜紀行 2024

縄文時代前期前半(約6500年前)～後期初め(約4500年前)の集落跡、国史跡・大木圃貝塚(だいきがこいかいづか)。標高38m程の高台にあり、松島湾を代表する貝塚の一つで、特に縄文時代の東北地方南部で盛んに製作された縄文土器「大木(だいき)式土器」の名前の由来となっていた遺跡です。

史跡公園整備の際に植えられた桜と貝塚内に自生していた桜を合わせて約200本あること、貝塚内に樹齢100年程のエドヒガンの一本桜「だいき桜」があることから、約10年前から「大木圃貝塚桜紀行」と題したイベントを実施し、貝塚内の桜の公開を行ってきました。貝塚内の桜は日本古来からの野生種の桜で構成されていることが大きな特徴で、ソメイヨシノのように一斉に咲き、一斉に散ることがないことから、4月中何らかの桜が咲いている場所です。

「大木圃貝塚桜紀行 2024」

会期:令和6年4月2日(火)～4月21日(日)

会場:大木圃貝塚遺跡公園

※七ヶ浜町歴史資料館北側(七ヶ浜町境山2丁目1-12)

期間中、下記の関連イベントを予定しております。

・貝塚の桜展 4月2日(火)～4月21日(日)

・縄文と桜のワークショップ 4月7日(日)・14日(日)

(宮城県 田村 正樹)



2024年 
4/2(火)▶4/21(日)
【会場】大木圃貝塚遺跡公園 / 七ヶ浜町歴史資料館

縄文時代の集落跡である大木圃貝塚遺跡公園には200本以上の桜が植えられています。エドヒガン、ヤマザクラ、カスミザクラ、オオシマザクラという代表的な野生種の桜や八重桜などを比較しながら見学できる場所です。
貝塚内が桜で彩られるこの季節をお見逃しなく!

だいき桜(エドヒガン)の見頃は4月上旬です
※公園内は終日見学できますが夜間照明はありません。

【関連イベント】
写真パネル展 貝塚の桜展 2日(火)▶21日(日)
歴史資料館 展示室 9～16時 観覧無料
縄文と桜のワークショップ 7日(日)・14日(日)
歴史資料館 研修室 10～15時 体験料300円
(当日受付/数量限定) 石を削って桜の花びらストラップを作ります。

【お問合わせ】
七ヶ浜町歴史資料館 TEL: 022-365-5567 開館時間: 9～16時
宮城県宮城郡七ヶ浜町境山2丁目1-12 月曜休館
 

北海道・東北保存科学研究会 事務局より

◆異動、転勤等にもなう住所・連絡先の変更のある方はご連絡ください

【連絡先】

hokkaido.tohoku.hozon@gmail.com





シウダー・ファレス自治大学 建築・デザイン・美術研究所
准教授 喜多 裕子

メキシコから、土の建築の材料・構法や保存をテーマに便りを寄稿しております。今回は、『研究会だより no.47』（2020年12月）の「土の建築の保存9号」で少し紹介し、途中になっていました、カサス・グランデス地域の3つのメキシコ北部の土の建築に用いられた材料についての研究の続きを報告いたします。

カサス・グランデス地域

研究対象のカサス・グランデス地域は、現在の地理に投影すると、メキシコ北部のチワワ州北西部およびソノーラ州北東端、アメリカ南西部のニューメキシコ州南西端とアリゾナ州南東端が含まれます（図1）。ファレス市から車でおよそ4～6時間の距離に、パキメ遺跡、アロジョ・セコ遺跡、クエバ・デ・ラ・オジャ遺跡があります。

研究の目的と方法

それぞれの遺跡で異なる構法の土の建築に用いられた材料の特性を調べ、採掘場を推定し、当時の建築技法の解明に役立てることが本研究の目的です。1) 土の粒子径分布（ふるい分析および沈降分析）、2) 粘土鉱物の同定（X線回折分析）、3) 鉱物構成（X線回折分析および偏光顕微鏡による薄片観察）、4) 微細形態（偏光顕微鏡による薄片観察）、5) 元素の定性分析および定量分析（蛍光X線分析）とそのデータの要約（主成分分析およびクラスター分析）を行いました。

考察

それぞれの分析の結果から、3つの遺跡の土の建築の共通点として、砂質壤土の使用、および繊維の不使用が示されました。一方で、各遺跡の特徴も明らかになりました。パキメ遺跡の多層建築には、カリチェ（caliche）と呼ばれる炭酸カルシウムが自然に混ざった土の利用が見られたほか、パキメ遺跡の建築材料の採掘場に関しては、遺跡を1960年前後に発掘したディ・ペソの仮説が証明されました。アロジョ・セコ遺跡の壁は、建設予定地で掘削された土で作られ、クエバ・デ・ラ・オジャ遺跡の土壁には、岩盤表層が剥離したものを砕いて使われたと考えられます。クエバ・デ・ラ・オジャ遺跡の土壁の表層の土漆喰層に関しては、その土壁内部を含め、他の遺跡の土の建築材料とも性質が異なっており、今後さらに研究を進めたいと考えています。

最後に

今月12日に発表された論文に、今回の報告の詳細が載っております。

以下のリンクから、5月1日までの間、サブスクなしでの閲覧・ダウンロードが可能です。目を通していただけましたら幸いです。

リンク：<https://authors.elsevier.com/a/1lIAa,rVDBjZAm>



Kita, Y., Domínguez Acosta, M., Izaguirre Pompa, A., Hernández Ramírez, M., Girón García, P., Peña Rodríguez, A., Cruz Antillón, R., & Gamboa Carrera, E. P. (2024). Identification of soil selection and construction techniques of pre-Columbian architecture in the Casas Grandes region. *Journal of Archaeological Science: Reports*, 55, 104466. <https://doi.org/10.1016/j.jasrep.2024.104466>

図1. カサス・グランデス文化圏（赤点線）

- 1: パキメ遺跡、2: アロジョ・セコ遺跡、
3: クエバ・デ・ラ・オジャ遺跡、4: クアレンタ・カサス遺跡
（ベースマップ：ESRI National Geographic）

